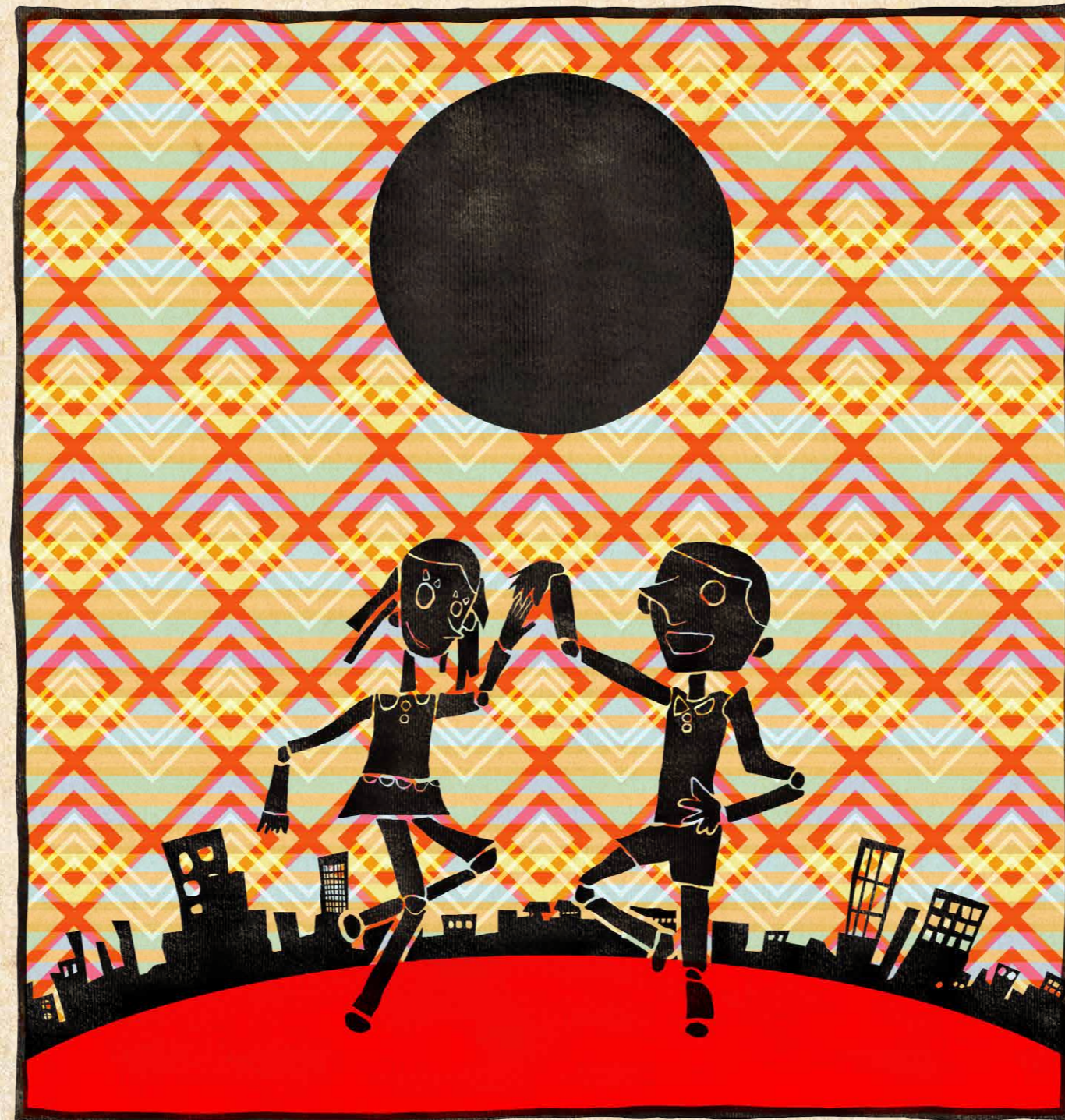


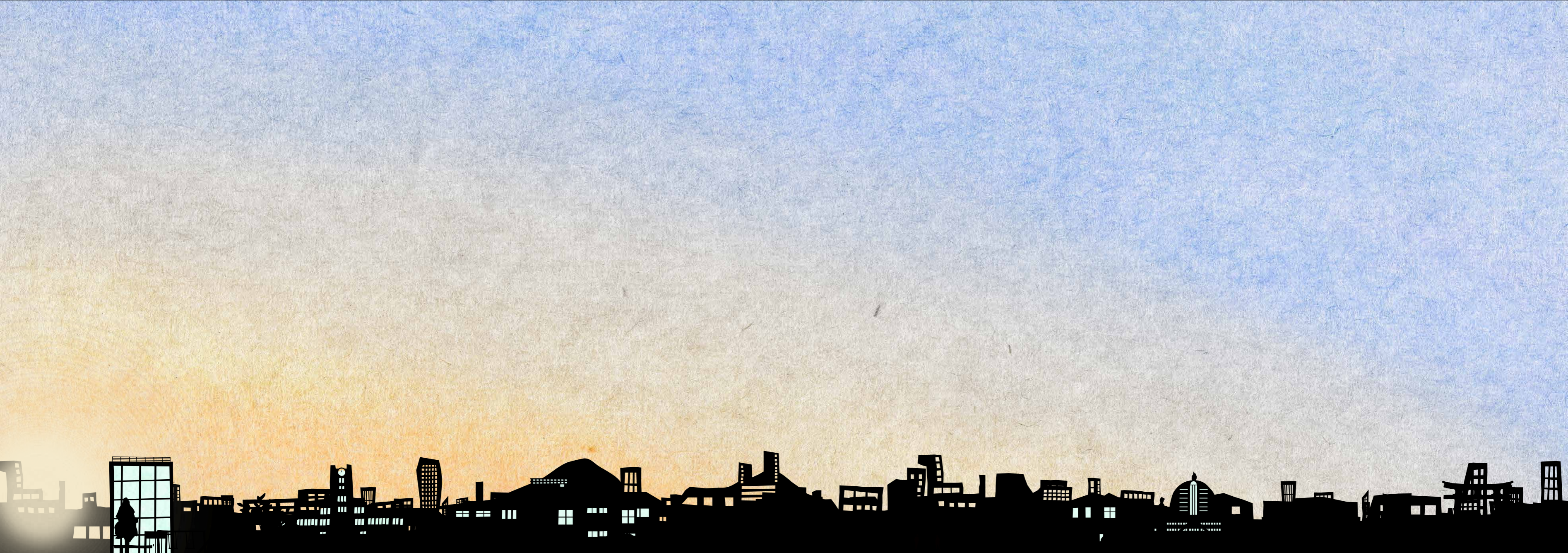
# 今日もこの街に太陽が昇る



さく・おかもと たくや



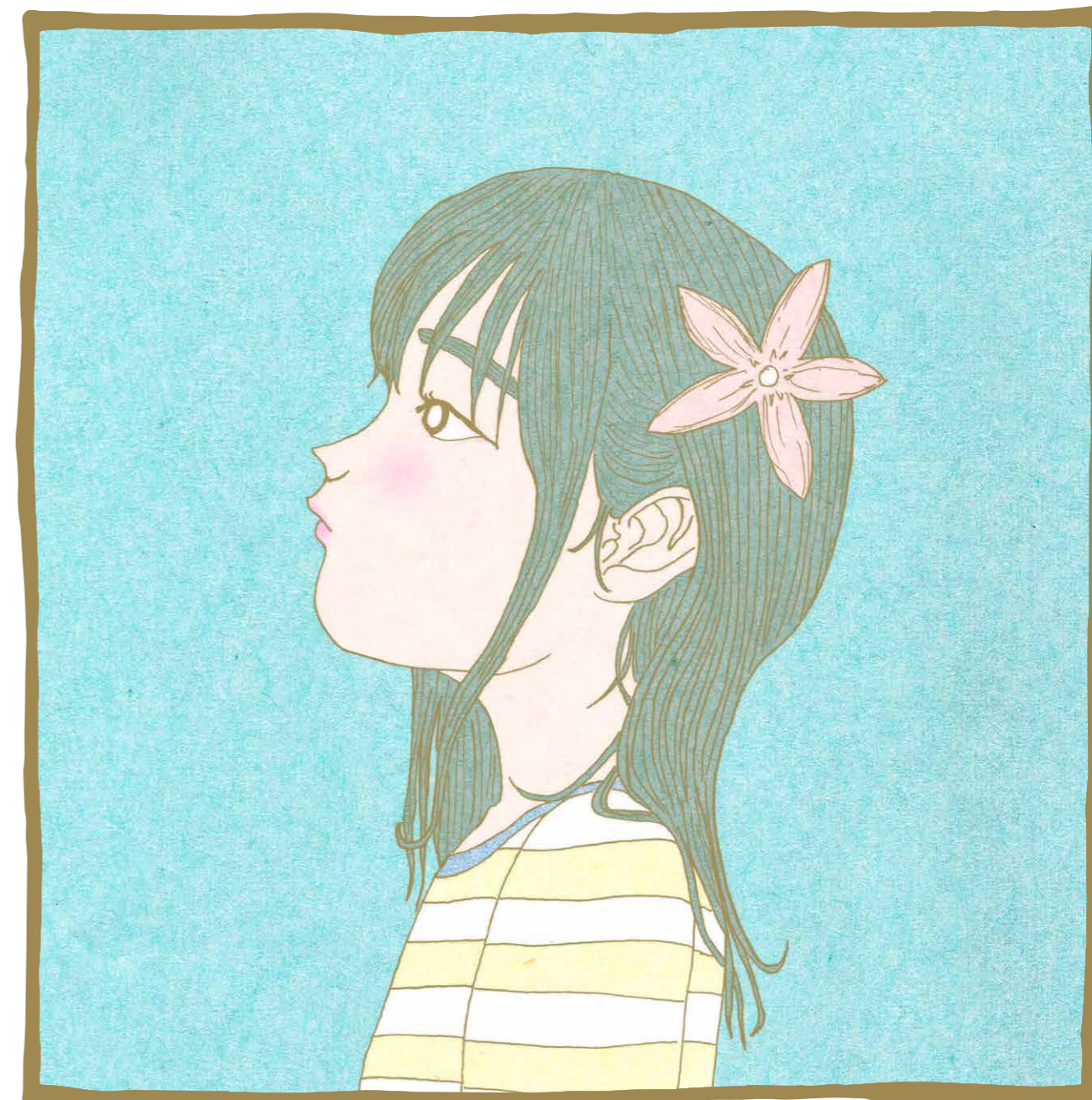
今日もこの街に太陽が昇る。



今日もヨウコちゃんの上に太陽は昇る。

ヨウコちゃんは最近、お母さんが自分よりも弟のことを可愛がっていることにうっすらと気づき始めていて、何だかお母さんごめんなさい、とよく感じる。

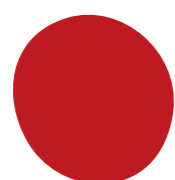
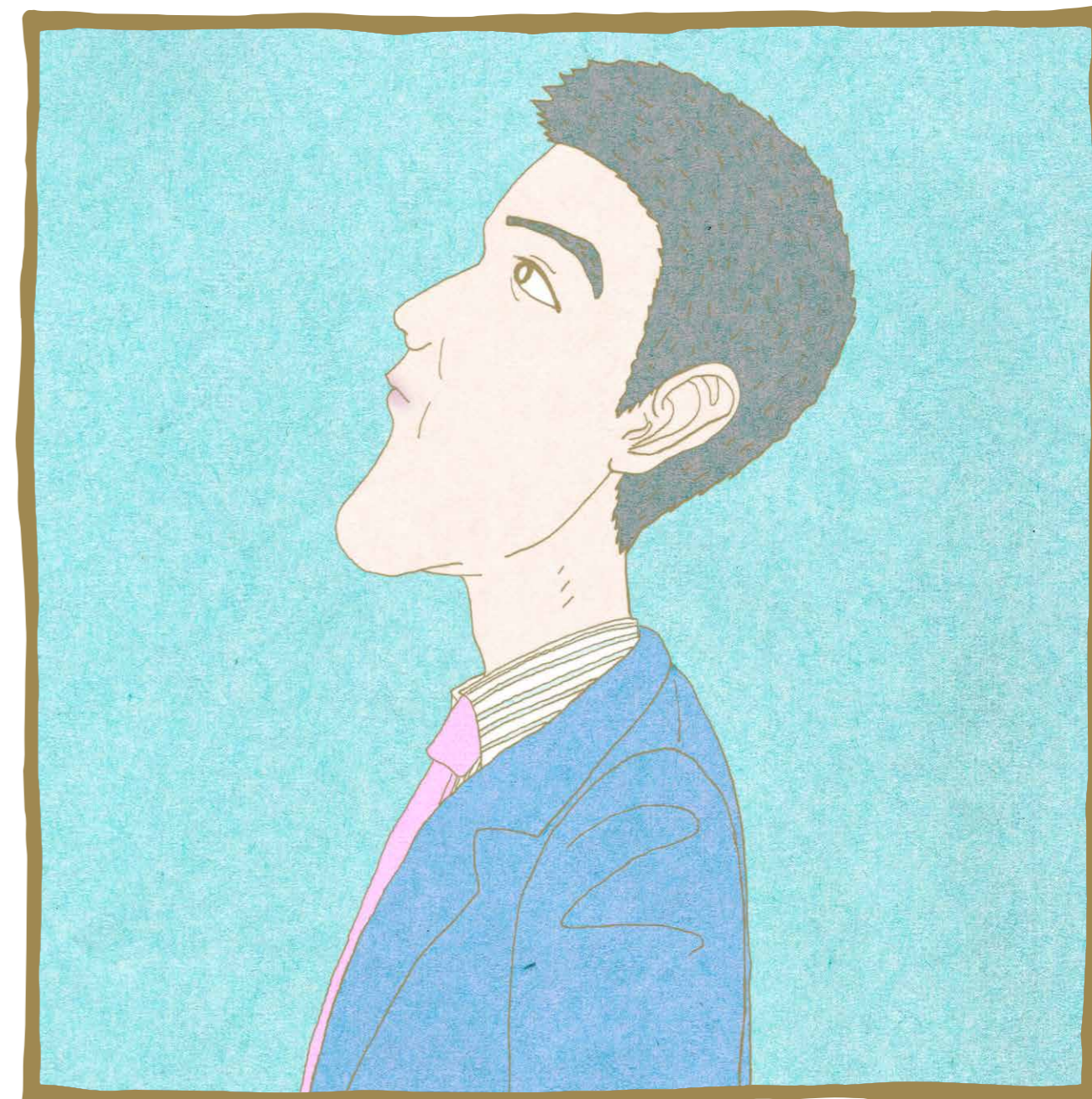
太陽はヨウコちゃんを愛している。



今日もケンイチロウ君の上に太陽は昇る。

ケンイチロウ君は二人の子供の父親で、浮気とかは一回もしたことがないけど、家庭にも職場にも居場所がないような気がする。だけど悩んでいる余裕なんてない。

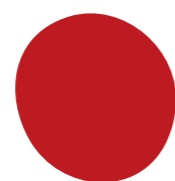
太陽はケンイチロウ君を愛している。



今日もカズコちゃんの上に太陽は昇る。

カズコちゃんは今、老人ホームで静かに暮らしている。都会に住んでいる自分の子供達にはなるだけ迷惑をかけずに生きていることがカズコちゃんのささやかな誇りだ。最近、物忘れがはげしいけど、ふりかえってみて自分の人生はめぐまれていた、と思う。

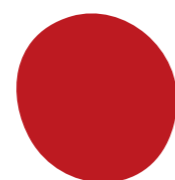
太陽はカズコちゃんを愛している。



今日もミツル君の魂の上に太陽は昇る。

ミツル君は小さい頃から頭がよくってイチリュウダイガクへ進学したけど、やっぱり、この先、生きてく意味がわからないことに気づいて、そのムナシサに耐えかねて、とうとう一昨日の晩に自殺した。生まれてこなければよかった、と思いながらミツル君は死んだ。

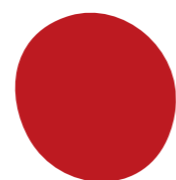
太陽はミツル君を愛している。



今日もアツシ君の上に太陽は昇る。

アツシ君は3ヶ月前にアユミちゃんと結婚した。「アユミちゃんと、とりあえずココまで来れてよかった。仕事は楽じゃないけれど、やっぱりこの仕事は自分には向いている気がするし、これから生まれてくる子のお父さんになるのだからもっともっと色々なことに責任を持たなきゃ」

太陽はアツシ君を愛している。

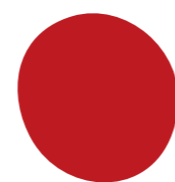




今日もチサトちゃんの上に太陽は昇る。

チサトちゃんは、今、生まれて初めてかもしれない恋をしている。チサトちゃんは若い頃から自分のことを恋多き女だと思っていたし、もちろんもう結婚だっ  
てしているけど、それでもこれは今までのどんな恋とも違う恋だった。チサト  
ちゃんはどこまでもズブズブと堕ちていく。

太陽はチサトちゃんを愛している。



今日もマコト君の上に太陽は昇る。

マコト君は今日もまた家から一步も出なかった。マコト君は今、仕事をしていない。マコト君は今まで一度も女の人と付き合ったことがない。死んでしまいたいけど、死ぬのはやっぱり怖い。「ニートセレブ生活乙ww」

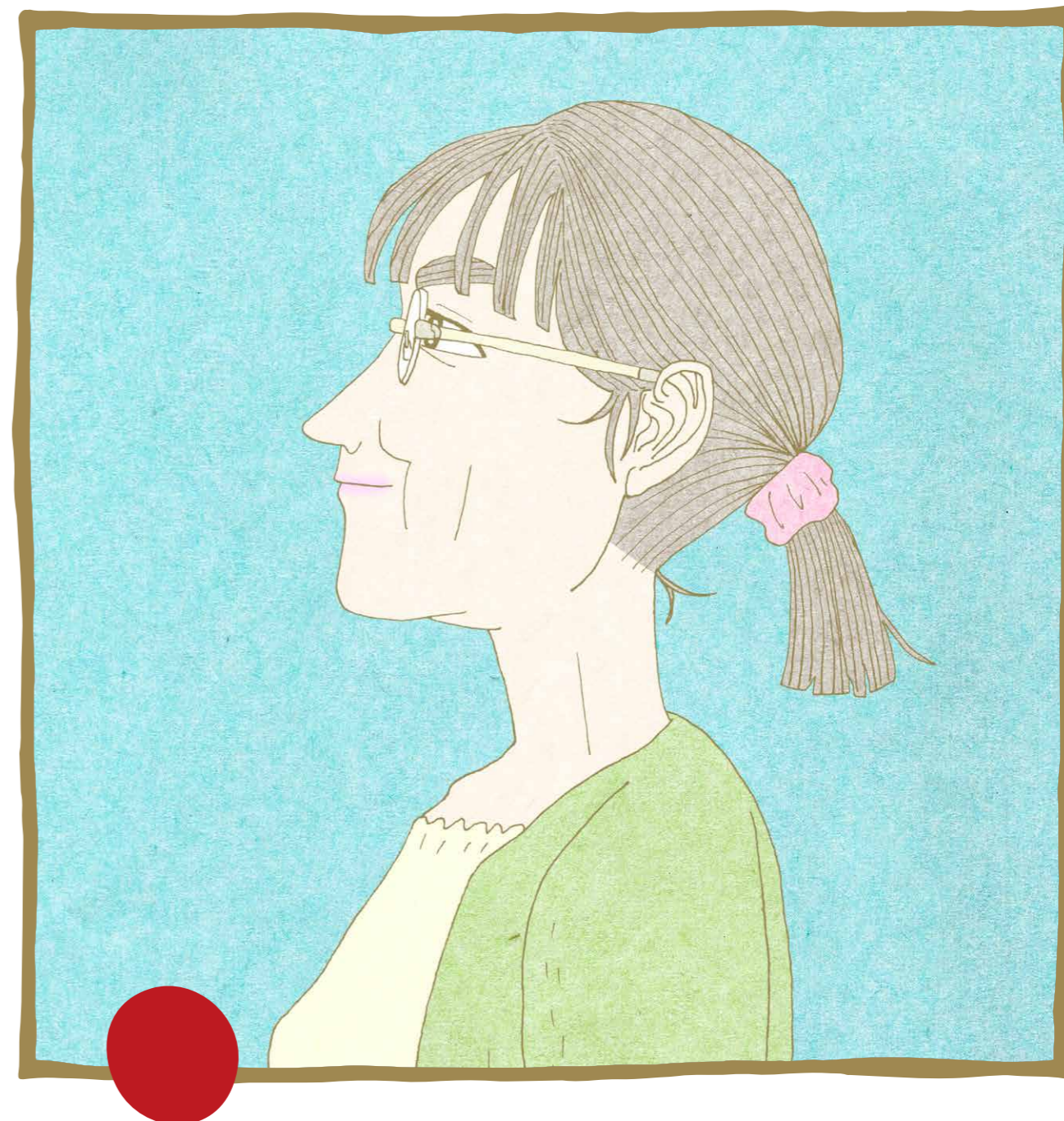
太陽はマコト君を愛している。



今日もヨシエちゃんの上に太陽は昇る。

ヨシエちゃんは、今から300年ぐらい昔にガイコクで活躍した芸術家だった前世を持っているらしい。そして、その人生の時、お金をめぐるいざこざに巻き込まれて、なんだかとても罪深い死に方をしたらしい。「そういう魂は、今世でちゃんと苦しんで、そのカルマを返さなければいけないの。」ヨシエちゃんは目に見える世界よりも目に見えない世界を大事に生きている。

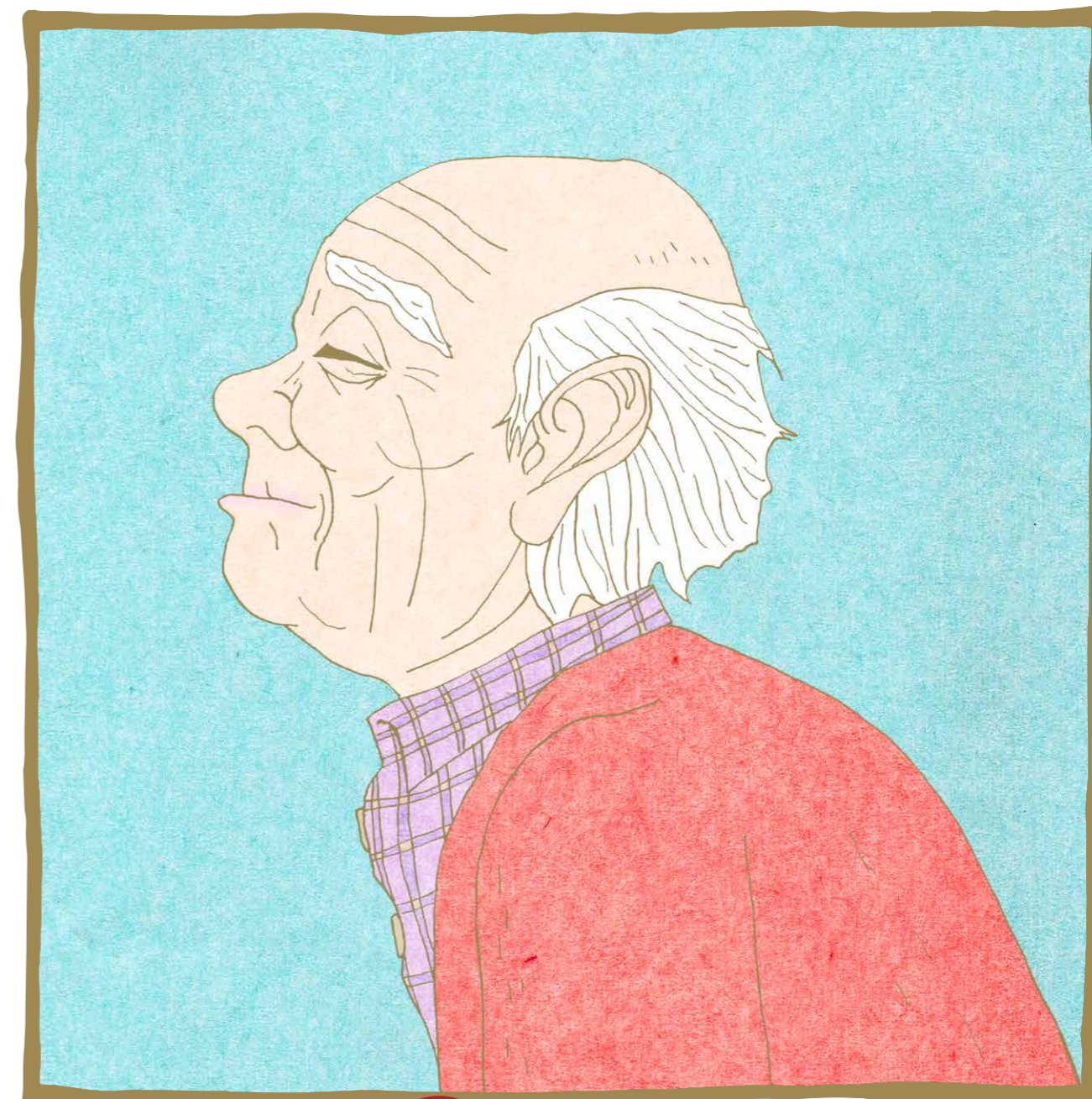
太陽はヨシエちゃんを愛している。



今日もヤスジロウ君の上に太陽は昇る。

ヤスジロウ君にとって人生は不条理そのものだったけど、生まれてきたのは、まあ、よかったか、とも思う。もう何年も前から少し身体を動かすだけでどこもかしこもが痛い。それでも、今日、がんばって散歩をしていたら色香のただよう若い女性とすれ違い、思わず振り返ってしまった。今日は善き日だ。

太陽はヤスジロウ君を愛している。



今日もジュリちゃんの上に太陽は昇る。

ジュリちゃんは自分が結構美人だということを知っている。自慢じゃないけど、今まで彼氏が切れたことなんてない。けど、今の彼氏は顔はまあまあとはいえ貧乏だし、そろそろ手頃なステータスで我慢出来る程度の顔の男を見つけて結婚を考えなきゃ、とあせり始めている。ジュリちゃんはその程キレイ好きってわけでもないけど、晴れた日に洗濯物を干すのが何より大好きだ。

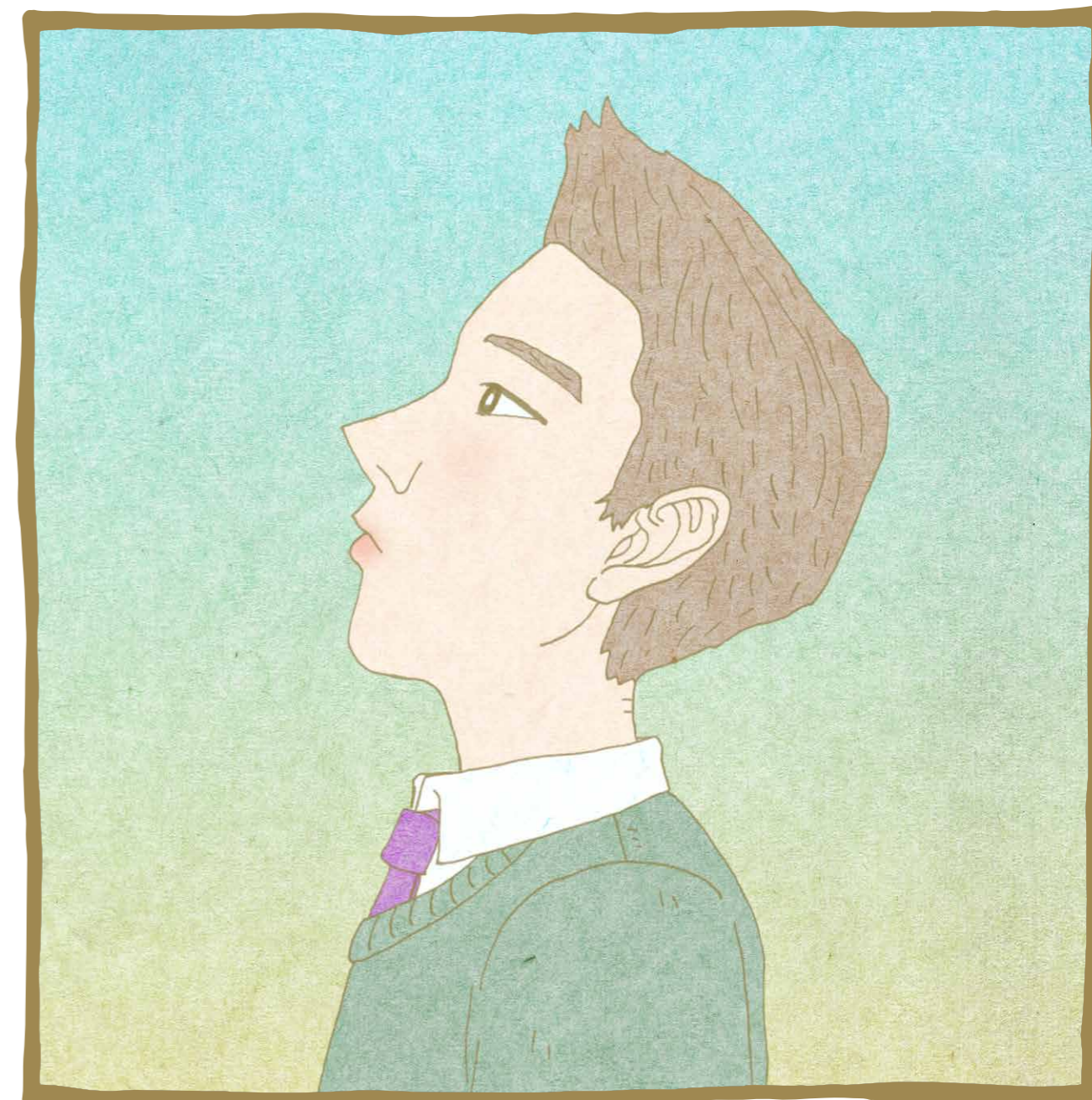
太陽はジュリちゃんを愛している。



今日もハルキ君の上に太陽は昇る。

ハルキ君は誰にでも優しく、明るく、勉強も運動も出来るのでクラスのみんなから慕われている。けど、ハルキ君はテレビやネットで犯罪者のニュースを目にする度に、密かに「こいつ俺と一緒にいたい」と思う。その気持ちはまだ誰にも打ち明けたことはないのだけれど日記には書いている。ハルキ君は真剣だ。

太陽はハルキ君を愛している。



今日もこの街に太陽が沈む。



ちぐはぐな僕らはそれぞれの夕焼けを越えてそれぞれのダンスを踊り続ける。

その足音は、時に優しく、時に切なく、  
そしていつだってとびっきりにつくしい。

さあ、飛び跳ねろ！僕らはどのみちカラッポと自由の奴隷！





明日も君の上に太陽は昇る。  
太陽は(きっと)君にのことも愛してる。



## おかもと たくや プロフィール

---

1982年岡山県生まれ、広島県育ち。信州大学人文学部中退。

大学を中退して漫画家を志すも挫折。本屋店員などをしていたが、画を描くことを捨てたくないと思い立ち、穴吹デザイン専門学校でグラフィックデザインを学ぶ。

この本は穴吹デザイン専門学校の卒業制作として制作した本です。

